

令和4年度第1回教育改革推進会議議事概要

日時 令和4年8月3日(水) 18時00分～20時00分

場所 三重県庁7階 教育委員室(オンライン開催)

出席 教育改革推進会議委員(欠席:黒田委員)

教育長、副教育長、佐藤次長、井ノ口次長、中川次長、水野次長
教育政策課

●次期「三重県教育ビジョン(仮称)」の策定に関する主な意見等

- コロナ禍により、子どもたちが人との関わりを制限される時だからこそ、県が新しい教育ビジョンを策定し、方向性を示すことは非常に評価する。
- 現行の三重県教育ビジョンにある「教育に込める想い」は、学校だけでなく保護者や地域、県民へのメッセージとなる大事な部分であることから、次期教育ビジョンも県民に向けたメッセージがあるとよい。
- KPIを設けるのであれば、どのような取組でKPIを達成するのか、KPIの達成がどのようなビジョンの実現につながるのかをわかりやすくするとよい。
- 社会情勢の変化には、教育格差に関することを記載してほしい。また、ジェンダーに関する問題は、学校教育でも大きな課題である。さらに、変化が常態化する社会のなかでは、子どもたちが自ら学び考えることがさらに重要であることなど、新しい学びのあり方について記載してほしい。
- 子どもが教育を受けるチャンスを失ってしまうことから、近年、問題視されているヤングケアラーに関することも加えてほしい。
- 最近の国際情勢などについて、子どもたちが一面的な見方をしていないかが気になっており、国際情勢と身の回りのつながりを関連づけて考える視点が必要ではないか。
- 新型コロナウイルス感染症の影響や近年の国際情勢をふまえ、子どもの心を豊かに育む人権教育の視点は重要である。
- 三重県を含め、全国的に教員を志望する学生が減っている現状をふまえ、教職員の魅力ややりがいを発信することが必要であるとともに、学校が教職員にとって働きがいのある場所であることが重要である。

- オンラインゲームで遊ぶ子どもが増えており、子どもたちの家での過ごし方に課題を感じている。また、子育てにもデジタル化が浸透する中で、子どもたちがICTを適切に利用する力を身につけることが重要である。
- いじめが発生した場合に学校が組織としてどのように迅速かつ適切に対処するかが重要である。
- コロナ禍により子どもたちが対人関係を築く力を身につける機会が奪われており、そのことは不登校児童生徒の増加の要因の一つになっていると思われる。学校の役割として、子どもたちが対人関係を身につける機会を増やすことが大切である。
- 現在、学校に過重な負担がかかっている。学力向上やいじめ問題、自己肯定感の育成などのさまざまな教育施策を進めるために、学校と家庭、地域が役割分担をしたうえで、それぞれが連携し、協働して取組を進めていくことが必要である。
- 教育活動に積極的に関わっている地域の方の固定化・高齢化が進んでいる。次世代への継承も含めて地域全体で取り組むことが重要であり、そのことが地域力の向上にもつながる。
- 教育格差を是正するためには、学校というプラットフォームに学校外のマンパワーをうまく組み入れて、持続可能な体制を構築することが大切である。
- 教育分野に関心を持つ企業も多い。経済界も理想的な教育環境づくりにより参画できるようにするべきだ。新しく「公共」の授業が始まったことや、円安など社会自体も変化していることもふまえ、経済に関することも次期教育ビジョンに加えてほしい。
- 現行の教育ビジョンにある「『オール三重』による教育の推進」は、次期教育ビジョンにも受け継いでほしい。